

西伊豆健育会病院 医事課 田中 沙由里

功 績 令和2年診療報酬改定において、DPC病棟から地域包括ケア病棟への転棟ルールが大きく変わり複雑化しました。そんな中、毎朝のベッドコントロール会議でDPC入院者1人1人の当日の点数と入院期間、リハビリ点数、看護必要度、地域包括ケア病棟の緊急入院件数、直接入院割合を1枚の紙で見られるように作成。ベッドコントロールする際、常に当日最高の点数でベッド移動し、且つ施設基準も意識したコントロールが可能となった功績。

推 薦 者 小柳 拓也

推 薦 理 由 今年度、診療報酬改定により、DPC病棟と地域包括ケア病棟をもつ病院は病院内の転棟に制限が設けられ、施設基準の維持と転棟対象者選定に苦慮することが予想されました。田中は各病棟の当日のタイムリーな状態と、DPC病棟に入院されている患者さんの必要な情報を確認できるシートを作成することで短時間且つ正確な対象者選定を可能にしました。患者さんにとって適切なベッド移動と病院における適正利益の最大化に大きく寄与した田中を理事長賞に推薦致します。

内 容

田中は入職12年目の医事課主任で、昨年は「返戻・減点の低減」をTQMの手法を用いて取り組み、大きな成果（前年の半分以下）をあげるなど、常に業務改善に対する高い意識を持った職員です。

今年度の診療報酬改定は、DPC病棟から地域包括ケア病棟に転棟する際に条件が付くことや、地域包括ケア病棟の要件も厳しくなるなど、DPC病棟から地域包括病棟に転棟する患者さんが約9割の当院にとって、ベッドコントロールがかなり厳しい状況になると予想されました。そこで田中は現在会議で使用している管理表を一新し、1枚の用紙でDPC病棟に入院している一人ひとりの当日の点数と期間（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）、リハビリの当日単位数と点数、退院予定先、看護必要度対象者、当日までに地域包括ケア病棟に入院している方の直接入院と緊急入院の割合などが一目で確認できるものを作成しました。

看護責任者・リハビリリーダー・医療連携室・医事課主任で毎朝行っているベッドコントロール会議においては、病状と日当点、看護必要度などを鑑みDPC病棟から移動する最善の対象者を選定しますが、今年度からはそれに加え地域包括ケア病棟の状況や個人のDPC期間も考えながらコントロールしなければならなかったため、また、新型コロナウイルスの影響により患者数自体が大きく減少していたため、対象者選定に難渋しておりましたが、このシートを使用することですべての患者さんの状態と病棟の状態が「見える化」され、短時間で最善の対象者選択が可能となりました。

結果として、診療報酬改定後一度も対象外の患者さんを移動させることなく、両病棟とも高い日当点を維持したままベッドコントロールができています。

今回、医事課の主任として、患者さんにとって適切なベッド移動と病院における適正利益の最大化に大きく寄与した田中を理事長賞に推薦致します。